



晩産化と妊娠・出産

稲城市保健センター

☎378-3421

わが国の女性が第1子を出生する時の平均年齢が、2011年に30・1歳となりました。日本はOECD加盟国の中で、出産年齢の高い国のトップクラスです。第1子の出産年齢は1980年に26・4歳で、この30年間で3・7歳も上昇したことになります。一方、女性の平均寿命は、2010年まで26年間連続して世界一を続け、2011年にも香港の86・7歳に次いで第2位となっています。妊娠や出産が高齢でも同

じように可能ならば、平均寿命がトップクラスなので育児の時間には余裕がありそうです。しかしこの条件が満たされるためには、高齢でも妊娠と出産の能力が保たれなければなりません。ところが高齢になると、妊娠する能力は低下し、異常な妊娠が増加します。高齢の女性では糖尿病、高血圧などの成人病の他に、前置胎盤や早産などの異常妊娠が増加します。

その結果であり、この背景には女性の高学歴化及び社会への進出があります。特に、出産と育児に適した年齢は、就職後に将来のキャリアの基礎を作るための重要な時期に当たります。出産、育児後の再就職を支援する活動も盛んですが、十分な効果はなさそうです。

若い時に子どもを産むことは、不妊の治療を避けて、妊娠・出産の危険を減らす

2012年には体外受精などの医療で生まれる子どもの数が全国で3万人に達し、体外受精などの治療が25万回実施されると推定されます。最近アンチエイジング治療などが脚光を浴びていますが、子孫を作る生殖細胞、とくに女性の卵子に対しては残念ながら老化の治療法がありません。出産年齢の上昇は結婚の遅

ことができ、健康、経済、そして子どもの未来につながります。また、女性は出産すると賢くなると言われます。妊娠、出産、育児は大きなイベントですが、これらの負担を軽減して、若いうちに子どもを作りやすい稲城市になるよう協力したいと思います。

稲城市医師会 北井 啓勝